

図7 腹腔穿孔例の腹腔から回収された *Bolbosoma* sp. 雌成虫 (HE染色) 鉤頭虫は、線虫、条虫、吸虫のいずれとも異なる形態的特徴を示す。分厚い表皮層とその直下の筋層に囲まれた体腔には、球状の卵巣が並んでいる。消化管はみられない(札幌医大寄生虫学、石倉 肇博士のご厚意による)。

(空胞状の子宮と卵巣)で満たされている。消化管はない。

参考：各種寄生虫卵の比較(模式図)

図8として、各種寄生虫卵の模式図を示す。大きさ、色、形や卵内構造にそれぞれ特徴がある。寄生虫卵では肝蛭卵が最大級、肝吸虫と横川吸虫が最小のサイズである。

参考文献

- 1) 鈴木了司：水田皮膚炎。皮膚病診療 1980, 2: 431-434
- 2) 増田智栄子, 大島智夫, 斉藤一三：水田皮膚炎。皮膚病診療 1987, 9: 553-556
- 3) 吉村裕之：横川吸虫症。臨床医 1979, 5: 766-767
- 4) 辻 守康：食品よりの感染—げてもものくいが主役—吸虫症。遺伝 1989, 43(4): 7-9
- 5) Africa, C. M., de Leon, W., Garcia, E. Y.: Visceral complications in intestinal heterophyiasis. Acta Med Philipp 1940, 1: 1-12
- 6) Ishikura, H., Takahashi, S., Sato, N. et al.: Perforative peritonitis by the infection with young adult female of *Bolbosoma* sp.; A case report. Jpn J Parasitol 1996, 45: 518-524

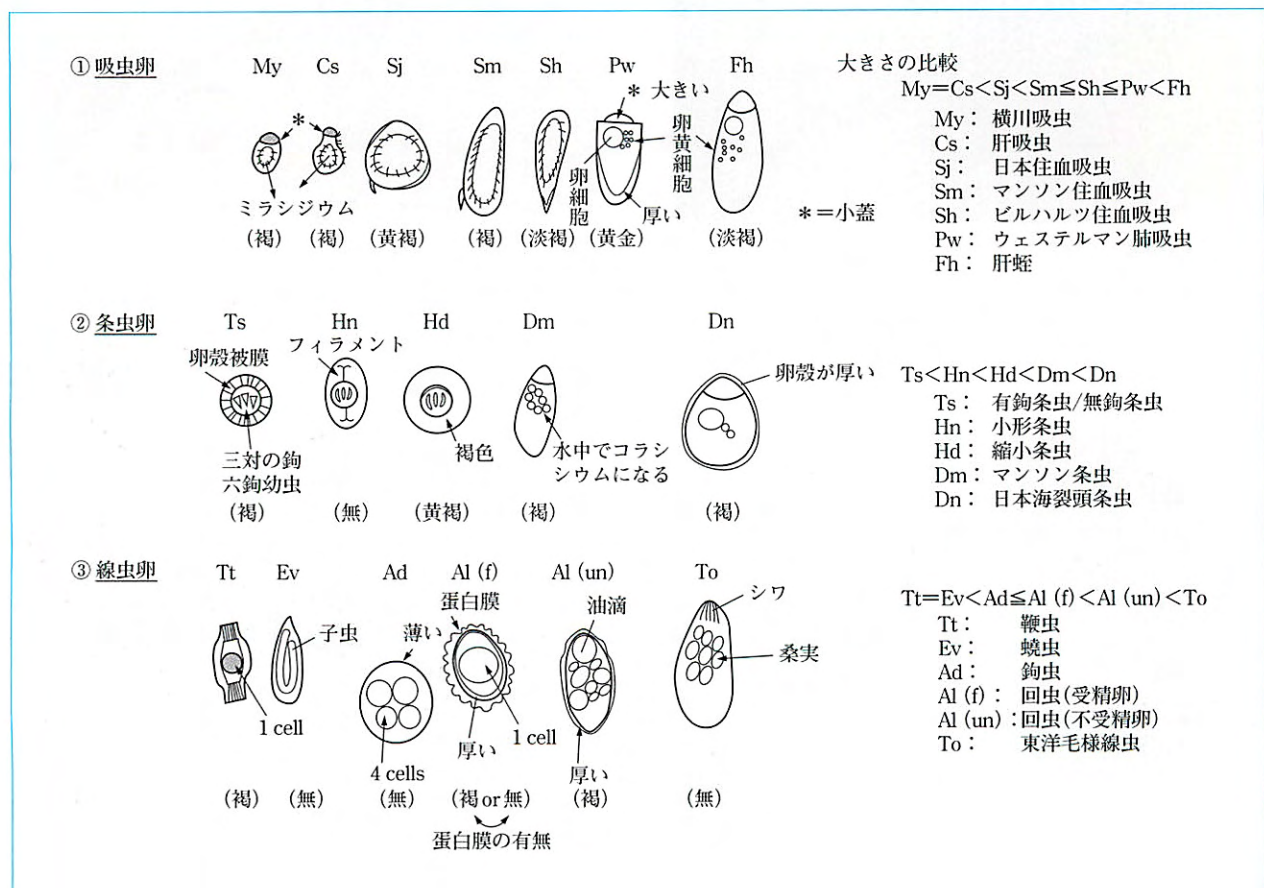


図8 各種寄生虫卵の模式図(大きさ、色、形と卵内構造の比較)